

# 薬剤耐性菌のリスク評価を推進しています。

■家畜に使用する硫酸コリスチンに係る薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価(第2版)

<http://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20200204000>

## 食品と薬剤耐性

抗菌性物質は細菌による人の感染症を治療するために大切な薬です。動物にも使われていて、畜産農家では治療のための動物用医薬品、効率的な畜産物の生産のための飼料添加物として使用されています。抗菌性物質の使用が適切でない場合、抗菌性物質が効かなくなった「薬剤耐性菌」が選択<sup>\*1</sup>されることがあります。家畜に薬剤耐性菌が存在すると、家畜の感染症の治療を妨げます。それだけでなく、畜産物に付着した薬剤耐性菌が人に感染症を起こし、抗菌性物質が効かずに治りにくくなるなど、人の健康に影響を与える可能性があります(図1)。食品安全委員会ではこの可能性とその程度について、薬剤耐性菌のリスク評価を行っています。

国際社会は、世界保健機関(WHO)が2015年に採択した「薬剤耐性に関するグローバル・アクション・プラン」に基づい

て、精力的に薬剤耐性問題の解決に向けて努力しています。日本政府も2016年に「薬剤耐性対策アクションプラン2016-2020」を決定し、省庁の連携を強化して薬剤耐性問題に取り組んできました。食品安全委員会は食品安全を確保する観点から、国内唯一の食品安全の評価機関として、2017年に行動計画を作成し、リスク評価を着実に進めてきました。

## 食品安全委員会の行動計画と成果

農林水産省は、家畜に抗菌性物質を使用することによって選択される薬剤耐性菌について、食品安全委員会に評価を要請します。それを受け、食品安全委員会は、薬剤耐性菌が食品を介して人に伝播し感染した場合に、人の治療効果がどれくらい低くなるかを評価します(図2)。評価結果をもとに農林水産省は、生産者、獣医師に対して抗菌性物質を更に適正に使用するよう指導します。

図1 薬剤耐性菌が食品を介して人に伝播する可能性と生じうる影響

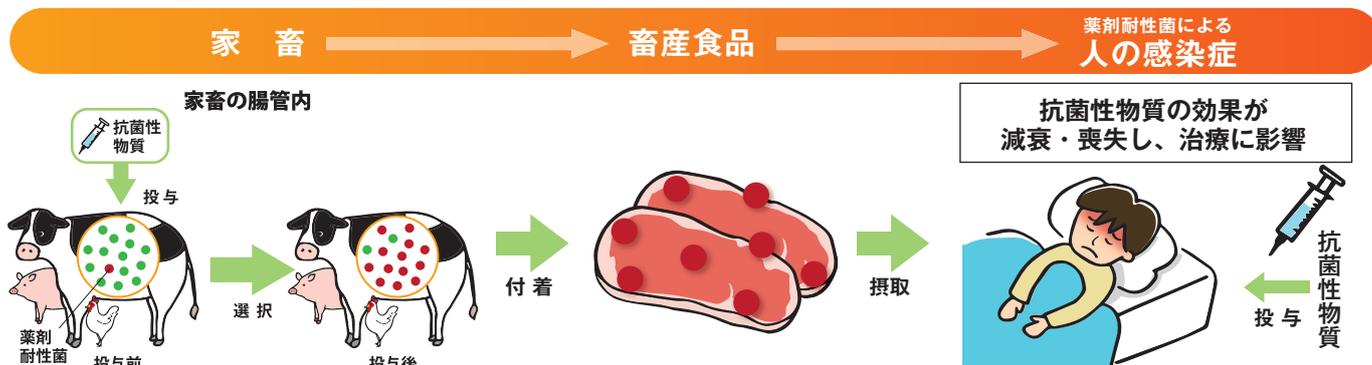


図2 薬剤耐性菌の食品健康影響評価の流れ

